

第 247 回地震予知連絡会 重点検討課題 趣旨説明

「日向灘で起きる地震」 “Earthquakes in the Hyuga-nada region”

コンビーナ 筑波大学生命環境系 八木 勇治

1. 背景

日向灘地域は、M7 クラスの大地震が頻繁に発生する地域である。地震計で計測された最大地震である 1968 年日向灘地震 (Mw 7.5) は日向灘北部で発生している。日向灘南部では、M7 クラスの地震が 10 年から 30 年という短い時間間隔で発生している。津波堆積物調査と津波シミュレーションによって、日向灘南部で発生した 1662 年外所地震が M7.9 の巨大地震であったことが指摘されている。また、日向灘地域は、大地震の震源域周辺でスロー地震が観測されている。

2. 課題

日向灘南部では、M7 クラスの大地震が、10 年から 30 年の間隔で発生しているが、これらの M7 クラスの大地震の震源域がどのような関係になっているのかは、よくわかっていない。仮に、1662 年外所地震がこの地域で頻発する M7 クラスのアスペリティの上位のアスペリティを破壊したと解釈すると、現時点でも日向灘南部で M8 クラスの巨大地震が発生する可能性がある。日向灘北部では、1968 年日向灘地震の震源域では地殻変動観測から歪みが蓄積していることが確認されているが、この M7.5 クラスのアスペリティが過去の地震でどのように破壊されたのかについてはよくわかっていない。

3. 報告

- ① 日向灘における地震活動の特徴 山下 裕亮 (宮崎公立大学人文学部)
- ② 1662 年日向灘地震の断層モデル構築と津波浸水範囲の考察
伊尾木 圭衣 (産業技術総合研究所)
- ③ 2024 年日向灘地震とその余効すべりの過程に沈み込んだ海山が与えた影響について
伊東 優治 (東京大学地震研究所)
- ④ 日向灘北部で発生する地震と南海トラフ地震との関係
堀 高峰 (海洋研究開発機構)

4. 論点

日向灘南部の今後の地震活動と M8 クラスの地震が発生する可能性

1968 年日向灘地震 (Mw 7.5) と南海地震との関係について

南海トラフの巨大地震の想定震源断層域に日向灘南部を含めるのは妥当なのか？

話題提供者〔敬称略〕

1. 日向灘における地震活動の特徴

山下 裕亮（宮崎公立大学）

2. 1662年日向灘地震の断層モデル構築と津波浸水範囲の考察

伊尾木 圭衣（産業技術総合研究所）

3. 2024年日向灘地震とその余効すべりの過程に沈み込んだ海山
が与えた影響について

伊東 優治（東京大学地震研究所）

4. 日向灘北部で発生する地震と南海トラフ地震との関係

堀 高峰（海洋研究開発機構）